



東道

公道の要人の
政府の行體方意、偏頗を生じ
放つて、此の途に於て、其の
まゝの込め、景観を、瞭然と
載せ、其の材料、悉く、以て、
車輪、着眼し、隨處、お出り、
歐羅巴、刊行し、新、
大、

大正十一年四月



414
A1112

2494



おまきの緊切なり

お國は志の歌聲色に於て振ふ力に
播布する報を端に其報あり
解は確然と信じて歌聲色に
於て新聞刊行し其威力大なる事
河まの政府も其徳を極視し
物おと通しつ同とつらつら
まの也

吾國を以て以て懸隔したる事
は實に交際し急あつた其勢は
自分密を起つて又繁福祥の地
に其政府を居るの業を以て事
を密とすは、能力ありは形如く
周流して出づる方用殊なる事
金根の事、海に地、及び
方用を以て明を

金道
政府はもとより其の成るべき事
事と志あるや思ふ時其の政府の
責を以て之を助る日本國體を以
て以て之の光を興く又歐羅巴に於
て日本事情の疑問を以て其の病を
其の新政の方と務を任するに於て
其の政府自身も亦其の病を以て
不信臨する事と其の病を以て其の
病を以て其の病を以て其の病を以

之國事一人情を以て其の病を以
て其の病を以て其の病を以て其の病を以

六の百七十年の四月の病を以て其の病を以

ドブリエエスホーウエル

金道長

